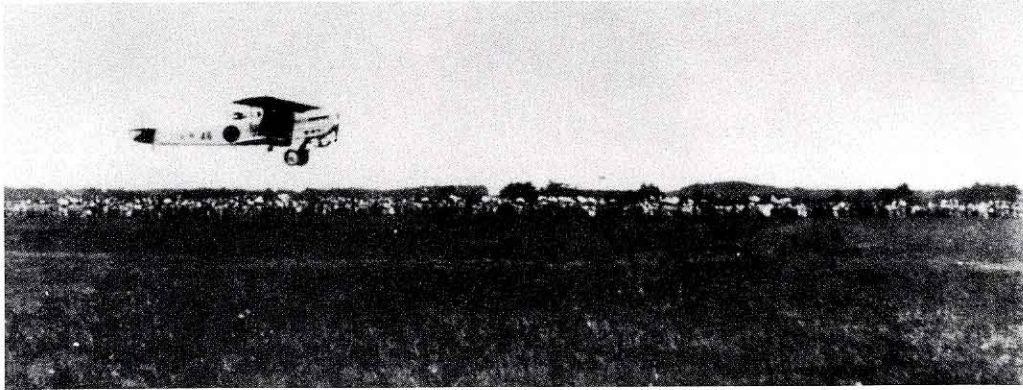


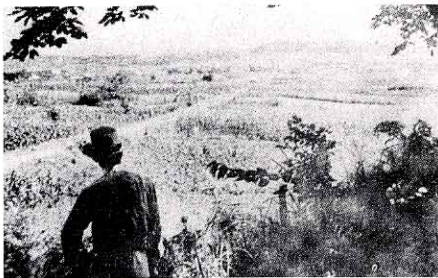
## 戦後の開たく

矢吹が原は草原のつづく作物のとれない原野<sup>げんや</sup>だったので、戦争中は飛行場が作られました。



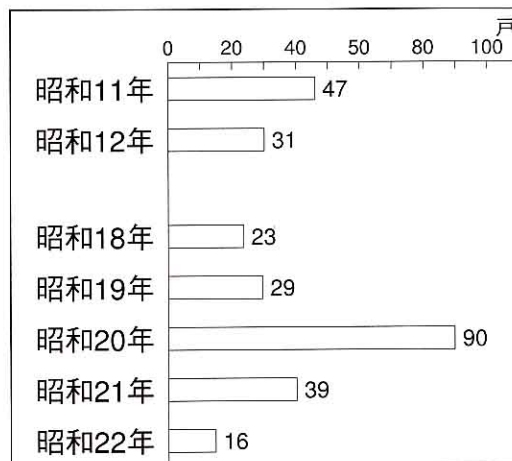
矢吹飛行場（昭和12年ごろ）

昭和11年（1936年）からふたび入植者<sup>にゅうしょくしゃ</sup>をぼしゅうし開たくが行われました。とくに戦後は戦地からかえった人や戦争で家をやかれた人、<sup>はとり</sup>羽鳥からうつてきた人など、新しい土地を求めて農業をする人びとのために飛行場あとも分けあたえ、さかんに開たくが行われました。



矢吹が原開たく当時の中畑弥栄集落

## 矢吹が原開たく入植者<sup>にゅうしょくしゃ</sup>



このころの矢吹が原は、松林と原野<sup>げんや</sup>、それに飛行場に残された長い滑走路<sup>かつそうろ</sup>。風がふくと、赤土がまきあげられ空が真っ赤になり先が見えなくなるありさまでした。